



三河湾に浮かぶ佐久島より知多半島を臨む。

「優しい医療・楽しい職場」にふれて

共和病院 顧問
後藤 陽夫

この4月から、当院の常勤医師として働かせて頂くことになりました。

私は精神科医師になってからの40年間のうち、36年間は愛知県立城山病院で、途中2年間は静岡県立病院養心荘で働いてきました。

精神科の経験は長いのですが当院では3ヶ月、まだ戸惑うことが多くご迷惑をお掛けしていますが、みなさんに暖かく迎えて頂き感謝しています。

城山病院では、治療困難な患者さんの担当や受け入れ、夜間外来の実施、精神衛生法の改正問題、応急入院をはじめとする精神保健福祉法の運用、外国人精神障がい者の方の入院治療や、県精神科救急システムへの県立病院としての参加など、また行政的な事では措置診察、実地指導への対応、精神医療審査会や医療観察法への関わりなどが特に記憶に残っています。一番嬉しく思っていることは、定年間際に、多くの方のご協力で城山病院の全面改築構想が実現したことでした。また、長く勤務することができたので、30年近く主治医として担当した患者さんもおられました。養心荘では、医療裁判で被告側としての業務も経験しました。

当院で働き始めて、とても印象深く思うことがいくつもあります。

病棟が広くアメニティがとても充実していること、数多くの専門職が配置されており、それぞれが自主的で活発に仕事をしていること、また入院患者さんの入院生活が活動的で、開放的なことや、隣接した住宅地の中に、福祉ホームや院内保育所があることなどです。開院されて50年が経過し周辺は住宅地となり、病室の窓から隣の住宅や工場が見える環境の中で、病院の運営も開放的です。閉鎖病棟内でも、ご家族が病室で面会していたり、付き添われてきた幼児が病棟内で遊ぶ姿などにびっくりしています。また、一般社会と同じく喫煙に厳しく、敷地内が完全禁煙となっていることにも大変驚いています。

現在少し困っていることは、当院でのカルテが全面的に電子化され、その操作方法などに四苦八苦していることです。多少は慣れてきましたが、毎日のように周囲の方に助けられています。

当院の理念「優しい医療・楽しい職場」を、患者さん、職員みなさんの様子や建物を通して日々実感しています。私もこれまでの経験を生かし、少しでもお役に立ちたいと思います。今後ともよろしくお願いします。



日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

TOPICS・EVENT



第12回 共和病院 地域医療フォーラム

平成22年6月12日(土)大府市勤労文化会館において、第12回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。今回は、「多職種・多機関で支える地域生活」をテーマに、チーム医療や多職種・多機関の連携の大切さ、難しさについて、参加していただいた皆さんと共に考えることができました。

第1部は「チーム医療・連携について」と題して、長谷川メンタルヘルス研究所の遊佐安一郎所長に講演していただきました。遊佐所長はアメリカで学ばれ、現在も日本とアメリカを行き来し、様々な機関でご活躍されています。とても気さくで温かい印象の方でした。

はじめにシステムズアプローチについて、図を使って丁寧に説明していただきました。それによって患者様を取りまく複雑なシステムの中で自分の位置を確認することができました。治療チームにおいては、家族や多職種、その他たくさんの人が関わっており、その連携の調整は誰が担うか？その答えは患者さんと共に考えていくというのがとても印象的でした。

また、統合失調症についての話の中で、ストレス脆弱性について触れられました。回復の段階に応じて、ストレスの度合いを調整すること、患者さんと共に「チャレンジを作っていく」ことの大切さを述べられ、自分自身の患者さんとの関わりを振り返る機会となりました。

最後にチームのあり方として、分化(個々のチームメンバーが自分の役割を果たす)と統合(チーム全体が患者さんのニーズに合わせて連携して治療効果を上げる)のバランスが大切で、そのためにはお互いのシステムを理解すること、すなわち「連携」が不可欠であると話をまとめていらっしゃいました。

一人の力は限りがありますが、関係者が知恵を出し合い、患者さんと一緒に悩みながら、

一つずつ答えを出してステップアップしていくこと、そして患者さんが自分の病気との付き合い方を理解し、ストレスへの対処法を身につけられるように支援していくことの大切さを痛感しました。

日頃から漠然と「連携が大切」とは思っていました。講演を聞いてじっくりと考えたり、自分の行動を振り返ることができ、大変貴重な時間となりました。

今後の支援に生かしていきたいと思えます。
(医療福祉課 小池 敦子)

事例報告を通して



第2部は「多職種・多機関による地域生活支援の一事例」と題し1人のご利用者(Aさん)に対する支援について5機関8名の担当者がそれぞれの立場にて報告を行いました。

まずは当院精神保健福祉士の河村から4年間に渡るAさんへの支援の全体像の紹介を行ない、続いて楠原さん(障害者総合支援センター緒川事業所)からはAさんの個別支援計画についての報告がありました。ここでは「Aさんの目標への達成度ではなくAさん自身の満足度を重視すること」や「Aさんがどのような生活をしたかの希望を知り、住み慣れた地域で安心して暮らしながら夢に向かって歩みだせるよう関係機関と地域とが協力しながら応援していくこと」の必

要性が発表されました。次に小林さん(訪問看護ステーション グラシア)・吉田さんと平林さん(東浦町社会福祉協議会)・大木さん(NPO 法人 絆)からは、訪問の際に「連絡ノート」を活用し情報交換を行なって情報のズレが生じないように在宅支援の工夫の報告がありました。またAさんの出来る力を尊重することや支援の失敗談を交えての報告はとてもイメージしやすいものでした。当院デイケアセンター責任者の朝倉と当院急性期病棟責任者の新美からはAさんの入院中の出来事や様子、医療機関内における役割分担(主治医・デイケア・入院病棟・ソーシャルワーカー)の実践方法、多機関との連携の際に窓口を一本化し支援する側の意思統一と情報が錯綜しないよう工夫していること等を報告しました。

今回の報告では具体的な事例を通して、多職種・多機関における連携とは何かを改めて考える機会となりました。ご利用者の健康状態や希望について各支援者が正しく把握し、知り得た情報をチーム全員が共有してご利用者への支援を行なうという「情報の共有」が一番に重要であり、さらに多職種協働チームの方針をまとめ、同じ方向に向かって支援する「目的の共有」が大切です。そして連携とは縦割り分業ではなく、お互いの強み・弱みを理解し協業することが重要なため「相互理解に基づく役割分担」の必要性を感じました。フォーラム全体を通じて、「その人がどのような暮らしをしたいのかを明らかにすること」や、「その人のできる対処や工夫を考え、その人の強さや長所を伸ばすこと」の大切さを再認識することが出来たと思えます。

報告会の最後には第1部講師の遊佐所長から「Aさんの支援でそれぞれの担当者の出来ている事を大切にすること」、「チームの根底に流れているAさんへの思いを大切に、今後も継続して支援していくことの必要性」の助言があり、また座長の当院名誉院長の榎本からは「Aさんらしい良い人生を歩めるように今後も良い援助をして下さい」と報告者へ労いの言葉をもって第2部は幕を閉じました。

(デイケア課 朝倉 起己)



診療部

みなさんこんにちは、診療部です。

診療部は内科、精神科、歯科、臨床心理科から構成されており、常勤医師9名、非常勤医師13名、非常勤歯科医師4名、常勤臨床心理士2名、非常勤臨床心理士3名、秘書1名の計32名で日々頑張っています。業務としては内科と精神科の外来・入院診療を中心にこなしていますが、通院・入院中の方を主な対象とした整形



外科や歯科の診療、臨床心理士による心理療法や児童期の発達相談、さらに特定・一般健診や人間ドックも積極的に行なっています。また病院での診療だけでなく、公開講座での講演や保健所での相談業務などのご依頼をいただくことも多く、白衣を脱いで地域に出かけていくこともあります。

近年医療の進歩は目覚ましいものがあり、我々を取り巻く医療情勢は日々変化し、急速に高度化・複雑化しています。そのような状況の中「安心と信頼のできる医療・福祉」を提供するために、社会人・医療人として日々研鑽を積むとともに、院内の他部署のみならず地域や行政との連携を深め、広い意味でのチーム医療を実現できるようこれからも部員一同精進して参りたいと思っております。今後とも変わらぬご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

診療部長 渡邊 隆之

編集後記



ワールドカップでの日本、本当に残念でしたがチームとして素晴らしかったと思います。試合前の多くの予想は一次リーグ敗退でしたから、16強に残るとは思っていませんでした。今回の大会では、フランス、イタリアなどの強豪国は姿を消していきました。個人技の力だけでは勝ち進めず、反対に日本のように個人の力は高くはなくても組織力、チーム力、選手達の連携、まとまりが大切なようです。

よりよい医療に向けて

より良い知識を得るためにはじめた内科勉強会も、今年で6年目を向かえました。

毎週水曜日、午後5時30分から約1時間、いろいろな職種の方々が参加しています。

平成21年度の締めくくりとして、平成22年4月28日に終業試験が行なわれました。

写真は、優秀な成績でこの試験に合格されたメンバーです。



森川 裕子 (薬剤師) 大葉 聡子 (C-2病棟クラーク) 片山 朱美 (薬剤師)

この知識を日々の仕事に役立たせて、『優しい医療・楽しい職場』作りに貢献して欲しいと期待しています。

内科勉強会 講師 保原 怜子

国家資格 合格者

介護福祉士 杉田 龍子 A-2病棟 本間 妙子 B-4病棟
檜崎 龍 B-3病棟 市川 望 C-3病棟

“看護功労章” 表彰

福祉ホームB型 あしびの管理者である荒木多美枝さんが、平成22年5月12日 愛知県神田知事から「看護功労章」の表彰を受けました。共和会に入職して約30年、看護部長、在宅支援事業部長を歴任し、コツコツと共和病院における看護の礎を作ってきた功績が認められたこととなります。職員一同 心から祝福いたします。



今回の地域医療フォーラムのテーマは、まさしく「チーム医療・連携」でした。サッカー同様、個人プレーだけでは患者様に良い支援を提供できないことを、講演や関連機関との発表を通して感じました。日々の臨床では勝ち負けはありませんが、多職種との連携を通して、患者様が満足できる医療を行なっていきたいと思っております。

(Y.K)

食べて! 笑って! うたって! あしび交流会

平成22年5月29日
(土)に第5回目のあしび
交流会を行いました。

あしび交流会は「福祉
ホームB型 あしび」のご利用者とスタッフで
企画・準備をして日頃お世話になっている
ボランティアさんやご利用者のご家族、病院
関係者等の方々を招いてバーベキューや
ゲーム等を楽しむ、あしびの年1回の恒例
行事です。



毎年4月になると、ご利用者の中でも
今年の交流会はいつ? 何を(何を)する(何を)する?
と話題になり皆も楽しみにしています。
「交流会までには退院したい」と再入院中
の方には退院の目標にもなっています。また
ご家族も楽しみにされ、毎年参加して
いただいている方もいらっしゃいます。

当日は朝からご利用者とスタッフ、そして
デイケア・看護スタッフの応援でおにぎり
作りなどの料理が始まると、どんどん準備
が進みます。毎年、回を重ねるごとに
ご利用者の手際が良くなりました。これも開所

当初からボランティア
団体のひまわりさんと
毎月1回一緒に行なっ
ている料理教室のお

かげだと思ひます。屋外のテント張りや
バーベキューの準備は男性のご利用者
と病院職員の応援で行なわれました。開催
のあいさつもご利用者が行ないます。

今年は55名の参加があり、バーベキュー
とご利用者の皆さんで作ったおにぎりや

料理、デザートを食べながら、ひまわりの北島さんの
腹話術、カラオケ、あしび
手作りのビンゴゲームを
楽しみました。カラオケ
ではご利用者とご家族の
親子デュエットや姉妹デュ
エットが飛び出したり、とて
も和やかな時間を過ごし

ました。また、サプライズで外部
企業のユニオンホールディングス
さんからの大きなスイカの差し
入れもあり、おなか

も心も満たさ
れた1日
でした。

福祉

ホームB型あし
びは開所して5
年、多くの皆様
から沢山の支援
をいただいでい
ます。

あしび交流会は皆様
にあしびを知っていただく良い
機会であると共にご利用者そして私達スタッ
フが多くの方々に応援していただいでい
るのだと実感する日でもあるのです。

福祉ホームB型 あしび 管理者 荒木 多美枝



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ
納得のいく医療を受けていただくことを
目指し、それぞれの尊厳を大切にして、
思いやりのある医療を提供します。さら
に、地域関係機関との密接な関係を
保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病
気の性質などにかかわらず、必要な
医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性
および回復の可能性についてあなたが
理解できる言葉で説明を受け、それ
を十分納得して同意したのちに、医
療を受けることができます。ただし、
必要に応じて主治医の判断によっ
てご家族、代理の方にお話をする場
合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、
検査、看護・介護、食事その他につ
いてご自分の希望を申し出ることが
できます。また、他の医療機関に転
院したい場合は、必要な情報を提
供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報保護
されます。
- 5.あなたの社会でよりよい生活が提
供されるよう、地域関係機関との
連携を図ります。



お知らせ

- 7月29日(木)
盆踊り大会を開催します。
みなさまのご参加お待ちしております。
- 8月12日(木)～15日(日)
お盆休みにつき外来診療を休診
させていただきます。
※詳細は、追って院内掲示等でご案内いたします。
- 9月26日(日) 9:30～15:00
大府市福祉・健康フェアに出展します。
●場所/石ヶ瀬会館・保健センターなど
- 10月9日(土) 10:00～15:30
第5回 文化祭「てんてん祭り」を
開催します。
テーマは「育む」です。ぜひご来場下さい。

特定医療法人
共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>